

## 沖縄県国頭村のリゾート展開への取り組み

—地元主導リゾート構築のモデルとして—

An Approach to Develop the Resort in Kunigami, Okinawa

—As a Model of the Resort Conducted by the Local Team—

太田誠之

Masayuki Ota

### はじめに

「リゾート」= 滞在型余暇活動の展開により国民生活の質を向上させたいとの取り組みは、我が国が戦後復興を成し遂げて一段落した頃からなされており、その集大成として1987年に「総合保養地域整備法」、通称「リゾート法」が制定された。

しかしながら滞在余暇活動のソフト部分の準備もないまま箱物開発が優先され<sup>1)</sup>、自然保全の問題を含め地域社会とのトラブルをも引き起こし<sup>2)</sup>、他方バブル経済の終焉による資金繰りの悪化も含め開発活動が頓挫するとともに、リゾートという言葉自体までが輝きを失った<sup>3)</sup>。

リゾート法が機能しなくなった後、地元の意向を後回しにした反省を踏まえ、更に観光立国政策の後押しもあり、近年では地域が中心になった観光地整備やエコ及びニュー・ツーリズム（以後ツーリズムと呼称する）が導入・展開され、その隆盛ともにリゾートという言葉が必要とされなくなった感がある<sup>4)</sup>。

それでもリゾートは観光やツーリズムによって置き換えられるものではなく、観光やツーリズムのプログラムを滞在中の余暇活動の一つとして抱合しながら、異日常生活を通じて休養しリフレッシュする場という位置づけであ

り、当時期待されていたその役割は変質することなく温存されて、時代の要請を待っているものと思料する<sup>5)</sup>。

また「観光」や「ツーリズム」の隆盛は、そこに参加する利用者の滞在を通じて、図らずもより長期で快適なリゾートライフに通じる意識の成熟にも役立ち、回り道ではあったが、早すぎたリゾート法の精神がやっと生かされる時代がきたというべきであろう。

バブル以降の長かった平成不況から脱出して国民生活向上への期待が増えている時代であって、地方経済の活性化も期待されている。現在は観光立国政策のもと、人の異動と交流が推進されている段階であるが、その先に安定的な受け入れ基盤を図る為、「長期滞在」と「リピート」をキーワードにしたリゾートを都会労働者の休養受け入れ場所として、地元主導で整備を始める時期がきている。

そのモデルとして沖縄県国頭村を取り上げて、地元主導による新時代のリゾート整備の可能性を探りたい。同村は素晴らしい自然環境に囲まれ、それを守る為に地域の取り組みとしてエコツーリズムと共に「やんばる国頭自然保全型観光推進プロジェクト」<sup>6)</sup>を立ち上げており、それらの取り組みを通じて有力なリゾートに展開しうる条件をそなえている。

加えてモデルに従って他の地域でも民間先行で準備可能な課題を整理するのが今回の研究目的である。

研究の枠組みは以下に沿って進める。

- 1、リゾート法当時の先行研究に於ける定義や要件を概観し、当時と現在のリゾート利用者もしくは希望者の意識調査から、期待されたリゾートの一般的姿を再整理する。
- 2、今後の整備が期待できるモデルとして取り上げた、沖縄県国頭村の基本的情報と取り組み内容について整理する。
- 3、国頭村公営宿泊施設での滞在を長期化する為の要件を探るため、視察調査と宿泊者へのアンケートを実施する。
- 4、国頭村に於ける地元主導のリゾート構築に必要な方策と、その方策が他

所に応用可能であることをまとめ、提起する。

またここで取り上げるリゾートは、別荘や会員制リゾートマンション利用ではなく、訪問型のマーケットでの利用拡大を図ることを目的とする。

## 1 リゾートとは

まず「リゾート法」制定当時の絵姿と期待は何だったのか。その期待は現在でも有効であるかを考える必要がある。

### ①「リゾート」定義の再整理

戦後、我が国に「リゾート」の言葉を定着させた、通称「リゾート法」の第1条ではリゾート地の開発目的を「良好な自然条件を有する土地を含む相当規模の地域である等の要件を備えた地域について、国民が余暇等を利用して滞在しつつ行うスポーツ、レクリエーション、教養文化活動、休養、集会等の多様な活動に資するための総合的な機能の整備」された空間としている。

渡辺貴介氏は更に具体的に踏み込んで、

- ・日常生活を離れ
- ・快適な自然と文化の環境のなかで
- ・数日～数週間～数か月滞在し
- ・野外レクリエーション（スキー、ゴルフ、ヨット、キャンプなど）を楽しんだり
- ・音楽、演劇、社交を楽しんだり
- ・観光対象を鑑賞したり、ショッピングを楽しんだり等々の
- ・避暑、避寒、保養の生活を楽しむところ

と定義されており<sup>7)</sup>、その場では他律的生産活動の日常生活から離れ、滞在生活を通じて、主目的としての「休息・休養」をとることにより心身の健康を再生するための場所であることが理解できる。その延長に学習等を通じて自己再発見や自己実現の機会を持てることが含まれる。

この時代は、利用者がリゾート地を自己完結的に楽しむことに主眼が置かれていて、食事等に郷土色を求めることは強くとも、未だ地元の役割や交流

は前面に出てこない。

## ② リゾートと観光やツーリズム及び「ロングステイ観光」との関係

「リゾート法」から16年後にリゾート開発の反省を踏まえて国土交通省にて纏められた「総合保養地域の整備—リゾートの今日的考察—」では「すなわち、総合保養地域は多自然地域での滞在型の余暇活動を前提とするものであって、日帰りのレジャー、周遊型や慰安型の観光活動などを対象とするものではない」として「滞在」がさらに強調されている<sup>8)</sup>。

「観光」は見分を広めるための移動であったが近年では「ツーリズム」と同義語になって活動範囲が広く扱われる。また「ニューツーリズム」とは体験を中心とした交流型の旅行である。共に自己意志による自己実現の活動ではあるが活動目的的である<sup>9)</sup>。

対して「リゾート」は休養を基本にした日常からの自己解放が主目的であり、「なにもしない」時間の過ごし方も選択肢の中に入ってくる。従って「滞在型余暇活動」とは「休息・休養」を目的とした場所を基地として、期間中に周辺観光や地域型ツーリズムへの参加を組み込むことがある、という関係になる。更に「休息・休養」が定期的に必要とされるように、定期的、習慣的に訪れる場所である<sup>10)</sup>。

また1992（平成4）年2月に通商産業省（現：経済産業省）の認可を受けて設立された公益法人（財）ロングステイ財団（現：一般財団法人ロングステイ財団）は海外の滞在型観光推進に加え、2010年度に国内ロングステイの基本的な考え方および定義を「主たる生活の拠点のほかに、日本国内の他の地域にて比較的長く（一週間以上）あるいは繰り返し滞在し、その滞在地域のルールを遵守しつつ地域文化とのふれあいや住民との交流を深めながら滞するライフスタイル」とした<sup>11)</sup>。ロングステイ財団の考え方は、余暇を過ごすために他の既存生活圏の中から自分の目的に合った場所を選び滞在する、という個人活動を支援することにある。これはリゾートの考え方と相当部分が重なるが、目的によっては都市部もその対象となる。別にグリーンツーリズムによる地域滞在として、農家への民泊が展開され更に自然部に近づいてい

るが、休養というより農家の生活に合わせた文化体験学習の目的面が強い。

対してリゾートは農家滞在に留まらず体験学習もソフトとして、「滞在中」がその地域全体で長期余暇を楽しみ、リピートしてもらえぬ場を如何にして用意するかという、面整備の方向からのアプローチといえる。

### ③ リゾート意識調査による利用者のイメージ

社団法人日本観光協会が平成元年3月に発行した「日本型リゾートを考える」を参考に整理すると、我が国で目指したリゾートとは以下の様子になる。

余暇に関する意識調査ではS56～63の間に余暇の意識が拡大されており、S63.9月の男女3,000人対象のリゾートイメージの調査を纏めると、「1週間程度の自然部の滞在で、別荘、ホテルやペンションを利用して保養やスポーツ、音楽鑑賞等の趣味を楽しみ、郷土色豊かな食事をとりながらくつろげる雰囲気求めており、決して歓楽街や都会的雰囲気を選ばない傾向」が浮かび上がってくる。またその為のリゾートを構成する施設として森林公園、遊歩道等自然に親しむ為の整備を挙げ、スポーツ等活動の場ではインストラクターやガイドの人材を伴った施設づくりを求める。一方で5日以上滞在中では、ファミレスから始まって劇場、美容院、居酒屋、カラオケ等、日常生活を送るための施設を求めている。<sup>12)</sup>

また2005年9月に日本経済新聞社がインターネットで実施した、リゾートに対する意識調査では、リゾートに期待する楽しみに温泉のんびり(65.2%) 周辺散策(34.7%) 自然観察、エコツアー(9.7%)として、自然や地元に触れる気持ちが出てきている。<sup>13)</sup>

更に近々のロングステイ調査統計2013によると、「したいこと:のんびり過ごす、周辺観光、地元の食、ウォーキング・ハイキング・ジョギング、地元の人との交流、漁業農業体験田舎暮らし、スポーツ等の趣味」となっており個人的活動に加え、都会と違った地元での生活体験への想いが強くなってきている。<sup>14)</sup>

### ④ 今後のリゾート像

改めて諸点を整理してまとめると「リゾート」とは下記要件が整備された

空間となる。

- イ) 自然豊かな休養可能な場所、もしくはその周辺を含む
- ロ) 滞在目的に合わせた多様な宿泊施設を中心に展開
- ハ) 「休息・休養」を可能にする静的・動的休養施設の設置
- ニ) 滞在を楽しくさせる文化的や活動的プログラムの設定
- ホ) 滞在の生活部分を支援する施設設置とシステム整備
- ヘ) 地域への参加を促すプログラム設定や施設開放
- ト) 滞在者をリピートさせる受け入れ態勢や制度整備

これ等要件を関連付けて図示すると図1の如くなる。

ここでは各ゾーンと居住空間が重なりあうゾーンにおいて様々なソフトを用意して、地域内の各活動を一つの空間に結びつけることを目指す。

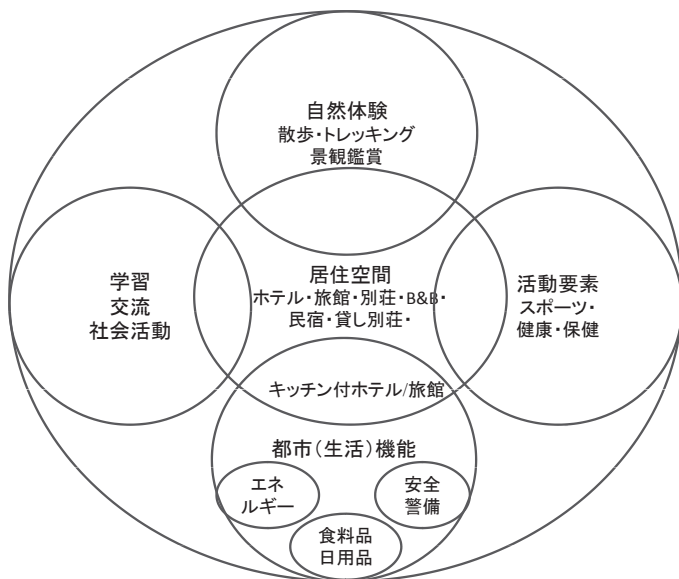


図1 リゾート空間の構成

## 2 リゾートモデルとしての沖縄県国頭村

国頭村をモデルに選んだ理由は、①リゾートの基本である自然を保持していること、②その自然保全に対しての地域住民の意識が高いこと、③住民のリゾートに対する意識と理解が高いこと、があげられる。更に④から⑥の如く、村主導で観光推進の取り組みが行われている。これ等の要素がうまく組み合わされ、滞在生活へのソフトが加われば、地元主導のリゾートとして今後の展開が期待できると考え、リゾートへのポテンシャルティーを把握する為、概要と取り組みについて以下に列挙する<sup>15)</sup>。

### ① 自然環境の良さ

- ・亜熱帯地域に属し森林は、村面積約195km<sup>2</sup>の95%を占め、本島全体森林面積の65%を有し、空気と水が清浄に保たれている。
- ・天然記念物指定のヤンバルクイナ、ノグチゲラ、ヤンバルテナゴコガネやリュウキュウヤマガメを始めとする希少な生物が生息する。



図2 国頭村地図

- ・「森林セラピー基地」として平成19年3月に認定を受けている。
- ・海も県最大の白いビーチを有しており、透明度もよくダイビングスポットが多い。
- ・縄文文化的採集に農耕が加わった生活を背景に自然崇拜の伝統的な祭祀が残る。

## ② 地域住民の自然保全意識とエコツアー

国頭村の自然保全の歴史は古く、18世紀前半に時の琉球王府の司官であった蔡温は各地へ赴き人々に植林を指導し、山林造成のために心血を注ぎ、現在の山原（ヤンバル）の森を再生したと伝えられる。現在はこの森林で溜められた水がダムを繋ぐ導水管によって南部へ供給されている。この事実は、国頭の自然保全が単に観光資源ということだけでなく、沖縄全体の生活を守っているということを意味する。

その背景を持つ貴重な資源を守りながら生態系を崩さない利用を目指して、村の有識者が中心になって活動を起こし、勉強会、ガイド育成等の地道な段階を踏んで、2002年に「国頭村ツーリズム協会」を立ち上げて現在に至っている。会員数は64名+6団体である。

其の後一部返還された米軍演習跡地と安波ダム建設時の残土置き場を基に2007年に「やんばる学びの森」が整備され、国頭村環境教育センターとして指定管理者制度による村からの委託を受けて管理運営を行い、ガイド帯同から利用料だけで遊べる各種のプログラムを用意し、子供から大人まで幅広く研修等を受け入れている。

また後述の JAL オクマでも協会の指導でガイドを育成し、近年では宿泊数の約4%の年間5～6千人がエコツアーに参加しており、村全体のプログラムとして定着している。

## ③ リゾート施設の歴史とサービス業人材の蓄積

### ア) 米軍保養地

戦後、米空軍が奥間の赤丸岬を中心に保養施設及び極東放送施設（VOA）として13万坪を接收し借り上げた。1972年の沖縄返還時に VOA 用の3万坪を



返却したが、残りの保養施設は運営が継続されている。施設は宿泊施設、レストラン&バー、ビーチ2か所、テニスコート、キャンプサイト、散策路に加え9ホールのミニゴルフ場も設置されている。

サービススタッフは現地採用であり、量的な影響は限定的であるがリゾート運営を経験した人材を育ててきたことになる。

#### イ) リゾートホテル

1972年の沖縄返還・本土復帰時に米軍より返却された3万坪の地主会の要請により、JALが1978年に「JALプライベートリゾート オクマ」(JALオクマと呼称)の名称でホテルを開業した。当初は米軍保養所用のコテージのみで出発したが、改装を重ねて現在では184室となり、地域唯一のリゾートホテルとして営業を約40年間継続している。年間の宿泊者数は約13万人強である。

#### ウ) サービス業人材

JALオクマの従業員は200名規模で地元からの採用比率は79%であり<sup>16)</sup>、平成17年国勢調査時の国頭村の総人口5,546人中(男性2,773人、女性2,773人)に対する就業人口は2,468名であり、その内6.5%以上の村民がリゾートサービスに関わっていることになる。また他サービスを合わせると第3次産業が60.3%となっておりサービス業務の人材が蓄積されているといえるが、沖縄県全体比率76.3%に比べると低い状況である。国頭村の人口は平成26年6月で5,072人と減少傾向にあり、今後他所からの移住を誘導する為にも、サービス産業の更なる展開が期待される<sup>17)</sup>。

#### ④ やんばる国頭自然保全型観光推進プロジェクト

総務省が平成19年から導入した「頑張る地方応援プログラム」に村として応募し、「自然環境の保全に責任をもって展開する観光によって地域振興を図る取り組み」を命題に平成19年から22年に以下の3点の事業方針を基に活動してきた<sup>18)</sup>。

##### ・観光資源現状把握事業

(フィールド調査、利用人数/売り上げ把握、経済効果等)

- ・観光推進拠点整備事業

(ゾーニングによる立ち入り制限や利用可能域の設定)

- ・観光推進体制整備事業

(宿泊施設や観光設備の整備と指定制度による運営体制)

また同時期に並行して、環境庁那覇事務局は米軍訓練場返還後の国定公園化を前提に、「やんばる地域の自然資源を活用した観光のあり方検討調査業務」を村と協働して自然の活用策と共に観光の経済的影響を検証し、平成20年に報告書を纏めている。

自然保全の為には、活動フィールド毎に立ち入り制限区域の設定と年間受け入れ可能数を設定し、且つ各フィールドを地域ごとに14エリアにまとめ、面的な利用が可能にする等の提言をしている。

また、増収の為の方策を提言する。産業分析のアプローチでは国頭村の県外からの収入は観光関連産業であり<sup>19)</sup>、「滞在時間を増やすことと消費単価を上げて村内への歩留まり率を向上させ」て収益の増収を図ることが推奨されている<sup>20)</sup>。

#### ⑤ 公営滞在施設の設置及び滞在ソフトの充実努力

上記「やんばる国頭自然保全型観光推進プロジェクト」の観光推進拠点整備事業に基き村民自身を始め、訪問者にも自然保全の取り組みについて理解を深めてもらうべく、既述のエコツアーを中心に、各種の学習施設やスポーツ施設を展開している<sup>21)</sup>。

- ・宿泊施設 (キャンプ施設、民家風施設 小中学校のリニューアル等)
- ・散策路の整備 (森林公園や学びの森等 セラピー効果認定受領)
- ・スポーツ施設 (クイナエコスポレク公園 総合体育館 パークゴルフ場)
- ・学習施設 (学びの森 ヤンバルクイナ観察小屋)
- ・物産購入施設 (道の駅 観光物産センター)

#### ⑥ 民泊のへ取り組み

グリーンツーリズムの流れに乗って、都市部と農村の繋がりを活発化すべく国頭村でも国頭村交流推進協議会を立ち上げたが、2012年4月に法人化

し、合同会社「結 くにがみ」を立ち上げ、民泊及びプログラム企画、特産品販売、観光案内情報発信の3事業に取り組んでいる。登録民家は24軒となり、更に大宜味、東と3村の連絡協議会を持ち、200名を超える大型団体も受け入れることが可能である。

提供する体験プログラムは、民泊体験を中心に、農業等の仕事体験、郷土料理、三線・エイサー等の文化体験、自然体験と多岐にわたっており、修学旅行を中心に受け入れをしているが、個人受け入れも可能である。村では更に、講習や衛生への取り組みを強化しながら、受け入れを倍増させるべく取り組んでいる。

### 3 国頭村営宿泊施設調査報告

前項で国頭村のリゾートへのポテンシャルティーをみてきた。確かに地元主導により訪問者が地域に興味を持ち、レジャーを楽しむといった自然利用、文化体験、運動施設が準備されてきている。一方で異日常とはいえ生活を営む以上、「利便性」や「快適性」が不十分で滞在しようと思うだろうか。確かに年配者には、自然の中で過ごすには全てを自分で用意し、運び、足りなければ諦める等の「自己鍛錬」が目的という気分がある。しかしながら時代の変化とともに価値観が変わり、更にリゾートが「休養」を促す空間であるならば、快適な生活の支援も滞在型余暇活動の大きな要件と考える。

その為、滞在の基本である宿泊施設の状況視察調査と共に、利用者の長期滞在の意識を探り、滞在の長期化とリピートする為の方策を探ることとした。

調査の方法等は以下の通りである。

- ・ 調査期間 平成26年8月31日～9月5日
- ・ 調査方法 1) チェックシートを基に視察調査及び管理責任者へのインタビューを実施  
2) アンケートにて宿泊客の各施設評価と長期滞在（5日以上）への意識調査を実施
- ・ 調査場所 ア) 楚洲あさひの丘（11/20） イ) 奥ヤンバルの里（10/20）

ウ) 森林公園バンガロー (2/20) (参考施設) JAL プライベートルリゾート オクマ (8/60)

(注 ( ) 内数字はアンケート回収数/配布数 合計31/120)

・調査用紙 チェックシート及びアンケート用紙については資料として最終頁に添付

また集計・分析を①施設毎の利用状況と総評、②長期滞在に対する意識は全体で行い、分析報告もそれぞれに行った。

### ① 施設関連報告

施設毎のチェックシートによる視察結果のまとめは以下の通りである。

表1 国頭村公営宿泊施設視察結果まとめ

	楚洲あさひの丘	奥ヤンバルの里	国頭村森林公園	JAL オクマリゾート
1. 宿泊施設自体	廃小学校施設を村で改修 福祉団体運営 10室/62名	施設は村設営 運営は奥部落 6棟8部屋35名	村設営 森林組合運営バンガロー3棟30名 キャンプ11	土地：地元地主会/施設ソラーレ/運営JHC148室
1-2. 施設評	トイレ・シャワー・ランドリー共用 OK 冷蔵庫無生活▲	キッチン・冷蔵庫・食器等備品が揃っており生活可能	トイレ有 寝具貸出 冷蔵庫・ランドリー無	フルサービス 但し電子レンジ無 湯沸しポット有
2. 食事関連	基本2食付5千円 BBQ 予約 OK 外食近隣無	自炊・BBQ 可能 食材徒歩圏内 レストラン有	BBQ 但し食材持込みか買出し コンビニ車10分	朝付基本 レストラン5 居酒屋1 コンビニ車2分
3. 娯楽関連	カラオケ設備 音楽プレイヤー持ち込み 画像電波悪	パークゴルフ 音楽プレイヤー持ち込み 画像電波悪	園内無 市街地車10分	酒処カラオケ有 衛星放送 WIFI 有
4. 売店含周辺	共同売店車1分 17時閉店 インスタント 食材なし	共同売店徒歩2分 レストラン売店 特産お茶 食材有	飲料自販機のみ 全て市街地	土産と雑貨2店 地元産品
5. サービス関連	団体送迎要予約 管理人手配 宅配共同売店	送迎無 宅配管理人 宅配共同売店	団体送迎要予約 手配/宅配 市街地/道の駅	団体要予約 手配デスク 宅配フロント
6. 自然触れ合い	散策路整備無 エコツアー村内ガイド 日の出鑑賞	村内ガイド 散策路 川沿い研磨石ベンチ	散策路 展望台 天文台 セラピープログラム	砂浜 夕日 海/山プログラム 園内ハンモック
7. 地元触れ合い	各地域で実施されたりするが、各宿泊施設が窓口になっておらず地元団体に直接問い合わせ必要			
8. リピーター対策	H25年間宿泊数 2,425人 経験値 85%が県内	H25年間宿泊数 4,316人 経験値で殆ど県内	H18年間利用者数 (含キャンプ) 4,100人 県内	H26見込み 13万4千人 経験値90%近く県外
8-2. リピーター対策	管理人保管の台帳で団体や学校中心 年賀状	管理台帳無 HP 更新のみ	役場窓口の団体・学校 ブログ更新 独自アンケート	潮風倶楽部 館内誌 HP 更新

注 年間宿泊数は各施設より聞き取り 但し森林公園は参考文献6 P5より取得した

#### ア) 楚洲あさひの丘

・2006年より廃校の小学校舎を村が改修して、社会福祉法人容山会がデイサービス、年配者用アパート、保育園そして団体合宿を中心の宿泊施設を運営しているが個人宿泊も受け入れている。料金は2食付5,000円が基本である。

・集落の反対側の急坂な丘の上にあり眺望は素晴らしいが、下まで降りても外部訪問者受け入れの設備がない為、施設内で過ごす合宿や研修向きの場所といえる。

・休暇時期には県内家族連れが海レジャーとBBQを中心に楽しんでいるとのことであるが、野鳥観察等の自己テーマを持ったリピーターもいる。

・アンケートは4泊5日の県外大学のゼミ合宿（女性のみ11名）にまとめて配布された為、回答者属性による比較ができなかったが、滞在期間について長いとの回答は1件で、長めの滞在を満足しており、また施設の満足項目は複数回答でも自然（9）スタッフ（7）と滞在を楽しんだ様子が伺える。

#### イ) 奥ヤンバルの里

・奥集落は11千haに84世帯／175人、共同売店において村で初めて地元民の共同出資方式を採用したが、この施設についても集落で運営されている。

・宿泊棟は6棟の民家的建物で8部屋に別れている。備品はキッチン設備から始まり食器付等至れり尽くせりである。洗濯機も各部屋に装備されており、長期滞在が可能である。料金は1部屋1万円からであるが、3人定員以上で一人当たり3,500円未満となる。

・園内を流れる川を中心に草も刈りこまれてパークゴルフも設置され、更に裏山に散策路も整備される等、宿泊施設の周辺でゆっくり過ごせる様グランドデザインがされている。

・2013年度の宿泊者数は4,316人であるが、8月をトップに7、9月で半数を超える。その他3、4月の利用と休暇時期に合わさっている。

・アンケートの回収は10件で、全て県内の利用であるが男女、年齢等幅が広がっているため、表2にまとめて掲示する。

表2 国頭村宿泊者アンケート集計 奥ヤンバルの里

年代	20代		30代		40代		50代	
性別	女性	男性 (3)	女性 (2)	男性 (1)	女性 (1)	男性 (1)	女性	男性 (2)
ファミリー			2	1	1	1		
グループ		3						2
居住 県内		3	2	1	1	1		2
日程 1泊		3	2	1	1	1		
2泊								2
回数 初回		3	1					1
2回			2					
3回				1		1		
4回以上								1
目的 休養		3	2		1	1		1
海レジャー		3	1	1		1		
山レジャー			1					
満足 宿泊施設			1	1		1		2
滞在費用		3	1					1
自然		3	2		1			
期間 短い			1	1	1	1		1
良い		3	1					1

注 表全体から回答があった項目を拾って縮小した 全体については後掲資料参照

- ・部屋の定員が多い為家族や友人のグループ利用が中心である。
- ・全員県内利用の所為か1泊が多く2泊は友人同士の1組である。
- ・初回が5名と半数を占めるが、リピーターが連れてくるケースが多い。
- ・目的は休養が年代を超えて8名と多いが、釣シーズンの所為か海レジャーも多くなっている。
- ・満足項目では施設、費用、自然に同数が振り分けられている。
- ・期間については1泊で短いと良いが同数であるが、良いは初回の若い層に偏っている。費用と自然には満足しており、滞在プログラムを検討する際にこの層に鍵が隠されているといえる。

#### ウ) 国頭村森林公園

- ・森林公園は国頭村の玄関口であり、宿泊施設や飲食店が多く、村役場がある辺土名地区の裏山に位置する。
- ・村の公営施設で指定制度によって国頭村森林組合が運営に当たっている。
- ・H18の施設宿泊人数は4,300人であり週末に集中しており、平日の稼働向

上が課題となっている<sup>22)</sup>。

- ・市街地部分が近い所為か、飲食については飲料自動販売機があるだけで、他に施設はない。

- ・アンケートは回収が共に県内の男女各1件の計2件であり、滞在は1泊2日である。但し4回以上の利用であり、裏庭のリゾート感覚である。利用目的も休養より海や山を利用した活動的である。満足項目も施設、費用、自然を挙げており、気軽な利用を楽しんでいることが推察される。

#### エ) 総評

- ・全施設とも素晴らしい自然に囲まれて、沖縄内で海も山も体験できる貴重な地域であり、通過型観光よりも滞在受け入れに地元がより積極的になるべきと思料する。

- ・1泊2食付の楚洲あさひの丘も素泊まり料金の設定があり、全施設は食事を外すことにより一人3,000円台の安価な水準を提供している。ただ村内の民宿にある長期滞在料金が公営の為か未設定であり、需要の多寡は別にして受け入れ意思の表示として設定が欲しい。

- ・これ等の施設で、滞在の機能を備えているのは「奥ヤンバルの里」である。滞在の為の備品と共に園内で休養と共にパークゴルフや散策等の活動もできる。比べて他の施設は部屋で寛ぐといったコンセプトが無く、せめて冷蔵庫や湯沸しポットは常備されるべきである。

- ・全施設に共通して感じたのは、提供されたのは寝泊りの施設のみであり、それでも森林公園のみ自前の自然触れ合いのプログラムがあるが、地元触れ合いについては全施設にプログラムが見当たらなかった。

#### ② アンケート集計結果報告（長期滞在についての設問分）

5日以上滞在对する意識を探った結果を表3にまとめた。またホテル利用層の集計を参考にできるよう、比較の形に作成した。

- ・休暇制度を別にした長期滞在への阻害要因としては、全体で費用問題が一番大きく、県外の利用者を中心には移動時間を挙げるが、国頭村は空港から一番離れている地理的な影響が背景にあると考える。次に利便性が続

表3 公営施設と JAL オクマ比較

性別		公営施設		JALオクマ	
		女性 (15)	男性 (8)	女性 (2)	男性 (6)
5日以上滞在					
活動	休養	9	3	2	4
	周辺旅行	9			5
	資格取得	2			
	自然触合い	5	1	1	2
	地元触合い	2			
	体験学習	2	1		
	阻害	移動時間	7	1	
	費用関連	6	3	1	2
	利便性	6	1		2
	子弟教育	1	1		
	ペット	2	1		
都会利便性	必要	13	4	2	4
	不要		2		1
滞在サービス	食事つき	9	1	2	5
	外食	2	2		1
	自炊	2	3		
清掃	毎日	6	4		3
	エコ方式	2	1		1
	セルフ	6	0	1	2
洗濯	外注	2	2		1
	コイン	11	2	1	5

注 表全体から回答があった項目を拾って縮小した  
全体については後掲資料参照

くが、特に若い層が不安を持つ傾向にある。数は少ないが子弟教育は30代の男女が挙げており、次世代への展開を考えれば何らかの対応が必要とされる。

・次に活動であるが、休養を全ての層が挙げており、リゾートの本質であることを確認させる。意外なのは地元触れ合いが少ないが、別の詳細質問ではイベント見学が合計12人になっており、まずは外側から覗くところから始まるのであろう。

・宿泊施設のサービスでは、県外を中心に食事つきパッケージが好まれるが、県内では費用の為か外食や自炊が多くなる。同様に無料の清掃は毎日欲しながら、洗濯は自前が多くなっている。



・阻害要因にもなった利便性は、最大の23人が必要と答えた。具体的にはコンビニを挙げる人が多く、24時間サービスの浸透は自然に近い地域であって何らかの工夫対応を迫られることになるであろう。

#### 4 国頭型リゾートもしくは地元主導型リゾートの構築について

##### ① 国頭型リゾートの構築

###### ア) 沖縄リゾート間の相違

沖縄のリゾートは幾つかに分けられる。

一つは、JAL オクマやカヌチャ・リゾートのようにホテルの館内や園内でレクリエーションを楽しむ宿泊客の支援を行う。ホテルの基本コンセプトは日常生活の煩わしさからの解放であり、非日常の滞在といえる。

二つは、近年の北谷町や恩納村の展開にみるように、地域全体がある程度都市化して、海を楽しむこともプログラムの一つとしながら、洒落たレストランやカフェに入ったり、土産物屋を見て歩いたりという、良い空気の自然のなかで都会的な生活を楽しむことがメインになる。宿泊でも通常のホテルから自炊可能な施設まで多様な生活スタイルに合わせられる。ここでは異日常というより場所を変えた日常生活を過ごすことになる。

それ等に対して国頭村のリゾートは三番目の方向として、自然がリフレッシュの為の小道具でなく、自然のなかでの滞在が中心となる異日常の生活体験を提供する。その中心施設として今回視察した公営の宿泊施設や、民泊という体験型滞在が拡充され、それに民宿等が加わることで多様な滞在スタイルが提供される。

###### イ) 国頭型リゾートへの条件整備

そのうえで国頭村が長期滞在とリピートを前提としたリゾートを目指すには、以下の準備項目があり更に整備を必要とする。

##### I リゾート・ターゲットの選定

平成18年の村内宿泊者数は18万7千人であるが、そのうち JAL オクマが13万7千人を占めており、その85%以上が県外からの訪問者である<sup>23)</sup>。アンケート

トからは日毎清掃、食事付で海レジャーがメインの姿がみえる。またエコツアーに半分参加する等山の自然にも興味を持つが、地元へは挨拶やイベント見学と一足飛びに生活まで入ってこない。

一方公営の個人利用者は全て県内からであり、従って当面のリゾート・ターゲットは県内に設定することで効率よい周知拡大を図れる。未だ宿泊数は短いもののリピーターが4回以上を含め多い為、リピート回数の拡大と新規客帯同時の優待等で利用客数拡大に努め、順次ターゲットを拡大していくステップを検討すべきである。

## Ⅱ ロングステイ用のサービス体制

各種の意識調査で一貫して求められている都会的な利便性や娯楽性に代表される「地域ごとにロングステイ用のサービス体制」への対応である<sup>24)</sup>。

自然部での滞在は不便なものという不文律から離れ、生活を楽しむことを積極的に検討する必要がある。今回の視察からみたポイント例は以下のとおりである。

- ・ 宿泊地区での購入施設と品目の改善
- ・ 自動販売機機能を利用した購入時間延長
- ・ 過疎の老人対策を含めたデリバリー・サービスの検討
- ・ ネット環境強化による娯楽を含む各種サービスの提供

## Ⅲ 一元的営業予約センター

今回視察した各宿泊施設は、各団体が指定委託業者として運営に当たっているが、本業を抱えて観光営業や予約コントロールには慣れておらず、スタッフも現場運營業務で一杯であり、外部への情報発信にはHPのブログを更新する位である。

また村役場は、「長期滞在」と「リピーター」の経済効果への期待はあり、滞在する学校や団体の誘致に積極的であるが、一般のマーケットへの周知には手が回らない状況であり、そのフォローと各施設を一元的に支援する営業予約センター的な組織が必要な時期になっている。

この組織が受け持つ業務範囲は以下の諸点が考えられる。

- ・国頭村の自然環境保全型観光に関する広報活動
- ・受け入れ観光商品の造成と宣伝
- ・各種プログラムの予約・手配業務
- ・各種登録宿泊施設の予約センター業務
- ・予約台帳に基づく統計作成と各種分析
- ・顧客台帳管理とアンケート調査及びCS分析
- ・各種分析結果に基づくリゾート運営改善策の提言

既述の通り国頭村にはサービス業に係る人材蓄積は厚く、その受け皿として、新規雇用の拡大にも役立つと料する。

#### IV 取り組みの効果的アピール

自分達の取り組みの紹介により、多くの訪問者を呼び込むには広く、上手にアピールされなければならない。例えば国頭村は自然環境保全の取り組みの中でヤンバルの森維持の大事さをアピールする。一方、2章エコツアーの項で触れたが、国頭の森が育む「水」は本島全体を支える水である。森は都市部から遠くにあるが、日々の生活で使っている水が国頭村と繋がっていることを知れば、その人達はその水を守る国頭の人々に親近感と興味を持ち易く、その取り組みにも興味を抱き訪問の切掛けの素地になる。

従って国頭の自然環境保全の取り組みのアピールに際しては、受け手が呑み込みやすいように「水」を前面に出すことが肝要である<sup>25)</sup>。

#### ② まとめ（地元主導型リゾートの構築に向けて）

以上国頭村による観光推進の取り組みの延長に、自分達の生活の中に訪問者（リゾーター）を招き入れ、もてなし、楽しんでもらいながら副業としての収益を得るといった、地元ツーリズムの延長にあるリゾートを模索してきた。それは従来からの外部資本による開発が若干の雇用と仕入れだけの効果を残し、収益はまた外部に持ち出されるといったリゾートからの脱却でもある。

その為の条件整備は、他の地元主導型リゾートを目指す地域にとっても応用可能であると思料し、改めて以下に整理して提起したい。

- ア) 基本的には地元自治体もしくは地元を調整できる実力ある団体が牽引する。
- イ) 地域の条件に合ったターゲットを選択し、宣伝活動を効果的に行う。
- ウ) 自炊やBBQも可能な多様で安価な長期料金を持った宿泊施設を用意する。
- エ) 宿泊近隣に生活支援施設を設け、滞在スタイルに合わせ品揃えに努める。
- オ) 自然や地元触れ合いプログラムの用意と共にガイド等を配置する。
- カ) ネット環境の整備により、情報提供及び娯楽の取り込みを可能にする。
- キ) 予約・情報・手配センターを設置して利用者へサービス向上に努める。
- ク) 「地域の宝」紹介では訪問側が納得するアピール方法を探る

そのうえで利用者用に地元の既存施設を開放することで「安価な滞在」が実現できるよう工夫し、更に地域全体で相互に共用して無駄な施設を省き利用範囲を広げる「ネットワーク型」整備の採用こそが、我が国の限られた国土にリゾートを再展開する為の知恵であろう<sup>26)</sup>。

## おわりに

戦後、国民生活の質向上に資すると期待されたリゾートは、拙速な開発と社会変化によってブームが下火になったが、昨今の地元主導の観光資源整備やツーリズムの開発の延長にある、滞在型観光の長期化の検討を通して「滞在型余暇活動」といわれるリゾート整備の時代が再来すると考える。この流れの帰結として考えるべきは、従来の外部資本によるリゾート開発ではなく、地元の取り組みを生かした休養のための空間を、「長期滞在」と「リピート」をキーワードに地元自ら整備する「地元主導型リゾート」であろう。

そのモデルとして自然保全を中心に地元主導の取り組みのある、沖縄県の国頭村を視察調査した。そこで見えてきたのは、「長期滞在」と「リピート」の為には、例え限られた環境でも生活の基本である「寝る、食べる、寛げる」を楽しめる宿泊施設の提供と、その生活が利用者と地元の交流によって成り立つ仕組みづくりの必要性である。

地域への訪問者を増やすためには、興味を湧かせる各種ツーリズムの様なソフト開発が必要であるが、その後長期滞在やリピートしてもらうためには異日常であっても生活を楽しむ要素が必要であり、その為には地元の支援が求められる。そこに「地元主導型リゾート」の意義があると結論したい。

今後はその空間で、快適で楽しく「長期滞在」をできるように、求められる「利便性」や「娯楽性」の詳細な中身を把握し、地域での実現性の検証の為、利用者に対し更に詳細な意識調査の実施が必要と考える。

## 注

- 1) 渡邊貴介「第1回シンポジウム 基調講演 我が国のリゾート開発への期待と課題」リゾート開発研究会『リゾート開発研究会5年の歩み』リゾート開発研究会 1992年4ページ「日本のリゾートがつまらないのは、ソフトウェアが非常に欠けている」と喝破されている。
- 2) 前田繁一・正岡秀樹・横山信二・伊藤浩『総合保養地域整備法の研究』晃洋書房 1999年 第4章 リゾートと環境保全 で愛媛県弓削町の立ち木トラスト運動によるリゾート開発反対運動を紹介している。
- 3) 安島博幸・十和田朗『日本別荘史ノート』住まいの図書館出版局 1991年 序言で「リゾート」ここ数年でこれほどまでにそのイメージが凋落した言葉もないだろう」と表現する。
- 4) 国土交通省観光庁編『平成25年版観光白書』国土交通省 HP 2013年 では各地域の観光資源整備取り組みについて詳述しているが、リゾート（総合保養地域整備）の言葉は平成17年度以降使用されていない。  
 〈[http://www.mlit.go.jp/kankochu/news02\\_000183.html](http://www.mlit.go.jp/kankochu/news02_000183.html)〉（検索日：2014年9月10日）
- 5) 国土交通省「総合保養地域の整備－リゾート法の今日的考察－」2003年28ページ「広く国民が滞在を楽しむことにより、ゆとりある国民生活の実現を図るという総合保養地域整備法の理念は引き続き重要な意義を有するものといえる」と再確認されているが、前掲通り観光白書には登場しなくなる。  
 〈<http://www.mlit.go.jp/hyouka/pdf/review/14/resort/honpen.pdf#search='http%3A%2F%2Fwww.mlit.go.jp%2Fhyouka%2Fpdf%2Freview%2F14%2Fresort%2Fhonpen.pdfsearch'>〉（検索日：2014年9月10日）
- 6) 「やんばる」は「山原」の読み方で、沖縄県の北部地域に森林が多いことから別称では

あるが県内では一般呼称として通用する。

- 7) 渡邊貴介「リゾート」 財団法人日本交通公社編 『現代観光用語辞典』 財団法人日本交通公社 1984年 274ページ
- 8) 国土交通省 前掲「総合保養地域の整備－リゾート法の今日的考察－」 31ページ
- 9) 観光庁 HP「ニュー・ツーリズムとは…地域固有の資源を新たに活用し、体験型・交流の要素を取り入れた旅行の形態」  
〈[http://www.mlit.go.jp/kankocho/page05\\_000044.html](http://www.mlit.go.jp/kankocho/page05_000044.html)〉 (検索日：2014年9月15日)
- 10) 国土交通省 前掲『総合保養地域の整備』3ページ「…広く国民の生活にメリハリを利かせて人生にゆとりと潤いを与えることであり、そのための滞在空間が総合保養地域であった。」として、各種活動が可能のように整備された空間の概念が強調されている。
- 11) 「LONGSTAY」は英語辞書にはなく、ロングステイ財団の登録商標である。
- 12) 社団法人日本観光協会 『日本型リゾートを考える』日本観光協会1989年 第4章日本人のリゾート
- 13) 日本経済新聞社 日経産業消費研究所 『全国主要リゾートの魅力度と将来性』日本経済新聞出版社 2006年 31ページ
- 14) ロングステイ財団 前掲書『ロングステイ調査統計2013』2013年 ロングステイ財団 75ページ
- 15) 国頭村 HP 〈<http://www.vill.kunigami.okinawa.jp/link/index.html>〉 参照 (検索日：2014年9月20日)
- 16) JAL オクマへの聞き取りによる
- 17) 環境省那覇自然環境事務所「平成19年度やんばる地域の自然資源を活用した観光のあり方検討調査業務」2008年5ページ  
〈[http://kyushu.env.go.jp/naha/nature/mat/data/m\\_2/h19\\_honpen.pdf#search=%E5%9B%BD%E9%A0%AD%E6%9D%91%E8%AA%BF%E6%9F%BB+%E7%92%B0%E5%A2%83%E7%9C%81+%E5%B9%B3%E6%88%90%EF%BC%91%EF%BC%99%E5%B9%B4](http://kyushu.env.go.jp/naha/nature/mat/data/m_2/h19_honpen.pdf#search=%E5%9B%BD%E9%A0%AD%E6%9D%91%E8%AA%BF%E6%9F%BB+%E7%92%B0%E5%A2%83%E7%9C%81+%E5%B9%B3%E6%88%90%EF%BC%91%EF%BC%99%E5%B9%B4)〉 (検索日：2014年9月21日)
- 18) 国頭村「やんばる国頭環境保全型観光推進プロジェクト」2007年  
〈[http://www.vill.kunigami.okinawa.jp/k\\_kikaku/documents/ganbaru\\_h21.pdf#search=%E5%9B%BD%E9%A0%AD%E6%9D%91+%E3%82%84%E3%82%93%E3%81%B0%E3%82%8B%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%82%AF%E3%83%88](http://www.vill.kunigami.okinawa.jp/k_kikaku/documents/ganbaru_h21.pdf#search=%E5%9B%BD%E9%A0%AD%E6%9D%91+%E3%82%84%E3%82%93%E3%81%B0%E3%82%8B%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%82%AF%E3%83%88)〉 (検索日：2014年9月21日)
- 19) 環境省那覇自然環境事務所 前掲「平成19年度やんばる地域の自然資源を活用した観

- 光のあり方検討調査業務」18ページ
- 20) 同33ページ
  - 21) 国頭村 HP 観光情報コーナー 〈<http://kunigami-kikakukanko.com/itiran/index.html>〉 (検索日：2014年9月21日)
  - 22) 環境省那覇自然環境事務所 前掲「平成19年度やんばる地域の自然資源を活用した観光のあり方検討調査業務」28ページ
  - 23) JAL オクマに聞き取り
  - 24) ロングステイ財団 前掲書『ロングステイ調査統計2013』9ページ
  - 25) 環境省那覇自然環境事務所 「平成20年度やんばる地域の自然資源を活用した観光のあり方検討調査業務」2009年145ページ 第3章 立ち寄り型観光ルートの拡充 (3) やんばる地域全体での立ち寄り型観光地の拡充方針の検討「ダムを訪れた観光客に、普段自分たちが飲んでいる水がやんばるから来ていることを改めて認識して…」  
〈[http://kyushu.env.go.jp/naha/nature/mat/data/m\\_2/h20\\_honpen.pdf#search='%E7%92%B0%E5%A2%83%E7%9C%81%E9%82%A3%E8%A6%87%E8%87%AA%E7%84%B6%E7%92%B0%E5%A2%83%E4%BA%8B%E5%8B%99%E6%89%80+%E5%B9%B3%E6%88%90%EF%BC%92%EF%BC%90%E5%B9%B4%E5%BA%A6+%E3%83%A4%E3%83%B3%E3%83%90%E3%83%AB](http://kyushu.env.go.jp/naha/nature/mat/data/m_2/h20_honpen.pdf#search='%E7%92%B0%E5%A2%83%E7%9C%81%E9%82%A3%E8%A6%87%E8%87%AA%E7%84%B6%E7%92%B0%E5%A2%83%E4%BA%8B%E5%8B%99%E6%89%80+%E5%B9%B3%E6%88%90%EF%BC%92%EF%BC%90%E5%B9%B4%E5%BA%A6+%E3%83%A4%E3%83%B3%E3%83%90%E3%83%AB)〉 (検索日：2014年9月25日)
  - 26) 社団法人日本観光協会 前掲書『日本型リゾートを考える』日本観光協会 1989年 32ページ 6リゾートの構造 (2) リゾートの形態

## 参考文献

- 1 環境省那覇自然環境事務所「平成19年度やんばる地域の自然資源を活用した観光のあり方検討調査業務」2008年
- 2 環境省那覇自然環境事務所「平成20年度やんばる地域の自然資源を活用した観光のあり方検討調査業務」2009年
- 3 国土交通省観光庁編『平成25年版観光白書』国土交通省 HP 2013年
- 4 国土交通省「総合保養地域の整備－リゾート法の今日的考察－」2003年
- 5 財団法人日本交通公社編『現代観光用語辞典』財団法人日本交通公社 1984年
- 6 社団法人日本観光協会『日本型リゾートを考える』日本観光協会 1989年
- 7 総務庁「リゾート地域の開発・整備に関する政策評価書」2003年
- 8 夏秋英房「自然と観光の共生を目指した生涯学習－沖縄県国頭村におけるツーリズムにおける村おこしの実践から－」聖徳大学生涯学習研究所『紀要2』聖徳大学 2004年

- 9 日本経済新聞社 日経産業消費研究所 『全国主要リゾートの魅力度と将来性』日本経済新聞出版社 2006年
- 10 前田繁一・正岡秀樹・横山信二・伊藤浩 『総合保養地域整備法の研』晃洋書房 1999年
- 11 リゾート開発研究会 『リゾート開発研究会5年の歩み』リゾート開発研究会 1992年
- 12 一般財団法人ロングステイ財団 『ロングステイ調査統計2013』一般財団法人ロングステイ財団 2013年



資料1 国頭村宿泊施設チェックシート

2014.09

	楚洲あさひの丘	奥ヤンバルの里	国頭村森林公園	JAL オクマリゾート
1. 宿泊施設自体	廃小学校施設を村で改修 福祉団体運営 10室/62名	施設は村設営 運営は奥部落 6棟8部屋35名	村設営 森林組合運営バン ガロー3棟30名 キャンプ11	土地：地元地主会/ 施設ソラレ/運営 JHC148室
全体眺望	太平洋眼下に朝日も 楽しみ	山合い 川遊び 古民家	海眺望 森林鳥の声	海眺望 白い砂浜
料金	1泊2食付 ¥5,000	1棟1万円～ @¥3千円～	1棟1万円(村外) @¥1千円	1泊朝付@¥
部屋眺望	全体同様 GOOD	全体同様 2方向 ガラス戸	木々に囲まれ山を 望む	園内ガーデン
広さ	10畳6人以上	LDK トイレ・浴 室+ BBQ 炉	10名収容トイレ シャワー付	2-4名 28・48・ 125m <sup>2</sup>
キッチン	無 BBQ セット有	有 ガスコンロ+ BBQ 炉	無 炊事棟 BBQ	無
寝具等備品	布団	布団	蓆 蓆	BED
NET 環境	無	無	無	ロビー PC 設置
清掃	有	滞在中セルフ	滞在中セルフ	基本毎日
洗面用具	歯ブラシ 石鹸	石鹸	無	歯ブラシ・石鹸・ アメニティ
風呂	大浴場 共同シャ ワー	シャワー	シャワー	大浴場 内風呂 シャワー
ランドリー	コイン式	各部屋洗濯機付	無(コインランド リーは村内)	園内にコイン式 フロント受
寛ぎ用具	窓際にテーブル椅子 セット	縁側	デッキ有 椅子無	デッキ ラナイ
テレビ	有	有	無	有
2. 食事関連				
パッケージ	基本2食 BBQ 予約対応	無	無	朝食付きが基本
レストラン	食堂 (福祉施設と共用)	有(11時-17時半)	無	5+テナント1
自炊	BBQ	OK + BBQ	OK + BBQ	無
外食	地域内無 奥地区車 15分	地域内有	車10分市街地	車10分市街地
食材調達	地域内無	共同売店一部可	園内無 市街地	不要
コンビニ	地域内無 共同売店	無 共同売店	車15分 (7・11 ローソン)	車5分 (7・11 ローソン)
出張調理	無	無	セラビーツアーで 茶菓提供	エコツアーでお茶提 供
3. 娯楽関連				
酒処	無	無	園内無 市街地	テナント ラウンジ
カラオケ	無	無	園内無 市街地	施設内
エンタ	無	無	園内無 市街地	イベント時
映画 DVD	無	無	無	無
音楽鑑賞	無	無	無	無
図書館	無 (小学校用書籍保管)	無(但 民具資料 館有料)	村立中央公民館 図書室	村立中央公民館 図書室

	楚洲あさひの丘	奥ヤンバルの里	国頭村森林公園	JAL オクマリリゾート
4. 売店含周辺				
土産物	無	奥みどり（茶）	無	土産 SHOP 併設
記念品	ステッカー （ヤンバルクイナ）	ステッカー （ヤンバルクイナ）	木製 KEY ホル ダー等	キャラクター
加工食料	共同売店 インスタント	土産コーナー・ 共同売店	園内無 市街地	SHOP
食材	無	土産コーナー・ 共同売店	園内無 市街地	不要
日用品	共同売店	共同売店	園内無 市街地	SHOP
5. サービス関連				
送迎	団体予約	無	団体予約	有料予約
手配デスク	管理人	管理人紹介のみ	村内道の駅内	有
宅配	共同売店	共同売店	園内無 市街地	フロント
その他				
6. 自然触れ合い				
散策路	街道筋	川沿い 奥の細道	散歩用からガイド 付きまで	園内3万坪 砂浜
休憩備品	無	研磨石ベンチ	ベンチ 東屋	ハンモック ベンチ 等
美観場所	海側ラウンジ 日の出	川の風景 漁港 （車5分）	池 展望台 天文 台	砂浜 夕日 鳥影
エコツアー	村にガイド 要予約	「奥庵」にてプロ グラム有	3時間半セラピー プログラム	山関連7コース
その他				海関連8コース
奉仕や体験	無	「奥庵」にてプロ グラム有	無	無
7. 地元触れ合い	各地域で実施されたりするが、各宿泊施設が窓口になっておらず地元団体に直接問い合わせ必要			
歌謡紹介	以前実施も中止	5月の鯉のぼり祭り		
練習会				
パーティ等				
三業体験				
8. リピーター 対策	H25年間宿泊数 2,425人 経験値 85%が県内	H25年間宿泊数 4,316人 経験値 で殆ど県内	H18年年間利用者 数（含キャンプ） 4,100人 県内	H26見込み 13万4千人 経験値 90%近く県外
顧客台帳	管理人保存 団体や学校	無（管理人メモ）	団体や学校 窓口は役場	有
季節案内	リピーターに年賀葉 書	HPにて更新のみ	森林公園ブログ有	4半期に館内誌発行
取り寄せ	無	無	無	無
地元会員	無	無	無	潮風倶楽部
CS	無	無	独自アンケート実 施	JHC や旅行者へ協 力
9. 運営関連				
スタッフ	福祉事業団スタッフ 兼務	地元採用2名+地 元応援	森林組合にて地元 採用	総数205名 地元79%

資料2 国頭村宿泊者アンケート集計 実施期間：2014.9.1-6

楚洲あさひの丘

年代	20代		30代		40代		50代	
	女性(10)	男性	女性	男性	女性(1)	男性	女性	男性
形態	単独							
	夫婦カップル							
	ファミリー							
	3世代							
	グループ	10			1			
居住	県内							
	県外	10			1			
日程	1泊							
	2泊							
	3泊							
	4泊以上	10			1			
回数	初回	10						
	2回							
	3回							
	4回以上				1			
満足宿泊施設		2						
	滞在費用	2			1			
	サービス	3						
	自然	9						
	スタッフ	6			1			
期間	短い	1						
	良い	8						
	長い	1						
	5日以上滞在							
活動	休養	5			1			
	周辺旅行	6			1			
	資格取得	1						
	自然触合い	3						
	地元触合い	2						
	体験学習							
阻害移動時間		7						
	費用関連	3			1			
	利便性	5						
	子弟教育							
	ペット	1						
滞在サービス								
	食事つき	7						
	外食	1			1			
	自炊							
清掃	毎日	3			1			
	エコ方式	1						
	セルフ	5						
洗濯	外注	2						

年代	20代		30代		40代		50代	
性別	女性 (10)	男性	女性	男性	女性 (1)	男性	女性	男性
コイン	7							
都会利便性 必要	8				1			
不要								
自然触合い								
風景鑑賞	8				1			
海レジャー	5				1			
山・エコツアー	1							
自然学習								
ボランティア								
地元触合い 挨拶	4							
イベント見学	4							
スポーツ交流								
呑み仲間					1			
文化教室								
取り寄せ	1				1			

### 資料3 国頭村宿泊者アンケート集計 実施期間：2014.9.1-6

#### 奥ヤンバルの里

年代	20代		30代		40代		50代	
性別	女性 ( )	男性 (3)	女性 (2)	男性 (1)	女性 (1)	男性 (1)	女性	男性 (2)
形態								
単独								
夫婦カップル								
ファミリー			2	1	1	1		
3世代								
グループ		3						2
居住								
県内		3	2	1	1	1		2
県外								
日程								
1泊		3	2	1	1	1		
2泊								2
3泊								
4泊以上								
回数								
初回		3	1					1
2回			2					
3回				1		1		
4回以上								1
目的								
休養		3	2		1	1		1
海レジャー		3	1	1		1		
山レジャー			1					
観光								1
満足宿泊施設			1	1		1		2
滞在費用		3	1					1
サービス								
自然		3	2		1			
スタッフ								

年代	20代		30代		40代		50代	
性別	女性 ( )	男性 (3)	女性 (2)	男性 (1)	女性 (1)	男性 (1)	女性	男性 (2)
期間	短い		1	1	1	1		1
	良い	3	1					1
	長い							
	5日以上滞在							
活動	休養	1	1	1	1	1		
	周辺旅行		1					
	資格取得	1						
	自然触合い	1			1			
	地元触合い							
	体験学習		2			1		
阻害移動時間		1		1				
	費用関連	1			1	1		1
	利便性		1					1
	子弟教育		1	1				
	ペット	1	1					
滞在サービス								
	食事つき		1		1			1
	外食	1				1		
	自炊		1	1	1	1		1
清掃	毎日	1	2	1		1		1
	エコ方式				1			1
	セルフ							
洗濯	外注			1				1
	コイン	1	2		1			1
都会利便性	必要	1	2	1	1	1		1
	不要							1
自然触合い								
	風景鑑賞				1			1
	海レジャー	1	1	1		1		1
山・エコツアー		1	1		1			1
	自然学習		2					
	ボランティア							
地元触合い	挨拶	1			1	1		1
	イベント見学		2					1
スポーツ交流								
	呑み仲間	1						
	文化教室							
	取り寄せ			1				

資料4 国頭村宿泊者アンケート集計 実施期間：2014.9.1-6

森林公園

年代	20代		30代		40代		50代	
性別	女性 ( )	男性 ( )	女性 ( )	男性 (1)	女性 (1)	男性 ( )	女性	男性 ( )
形態								
単独								
夫婦カップル								
ファミリー				1	1			
3世代								
グループ								
居住								
県内				1	1			
県外								
日程								
1泊				1	1			
2泊								
3泊								
4泊以上								
回数								
初回								
2回								
3回								
4回以上					1			
目的								
休養								
海レジャー					1			
山レジャー					1			
観光								
満足宿泊施設					1			
滞在費用					1			
サービス								
自然					1			
スタッフ								
期間								
短い								
良い					1			
長い								
5日以上滞在								
活動								
休養				1	1			
周辺旅行					1			
資格取得								
自然触合い					1			
地元触合い								
体験学習								
阻害移動時間					1			
費用関連					1			
利便性								
子弟教育								
ペット								
滞在サービス								
食事つき								
外食								
自炊					1			

年代	20代		30代		40代		50代	
性別	女性 ( )	男性 ( )	女性 ( )	男性 (1)	女性 (1)	男性 ( )	女性	男性 ( )
清掃								
毎日								
エコ方式								
セルフ					1			
洗濯								
外注								
コイン					1			
都会利便性								
必要					1			
不要				1				
自然触合い								
風景鑑賞				1	1			
海レジャー					1			
山・エコツアー					1			
自然学習								
ボランティア								
地元触合い								
挨拶					1			
イベント見学				1				
スポーツ交流								
呑み仲間								
文化教室								
取り寄せ								

資料5 国頭村宿泊者アンケート集計 実施期間：2014.9.1ー6

JAL オクマ

年代	20代		30代		40代		50代	
性別	女性 (1)	男性 (1)	女性 ( )	男性 (3)	女性 (1)	男性 ( )	女性	男性 (2)
形態								
単独								
夫婦カップル		1		2				2
ファミリー	1			1				
3世代					1			
グループ								
居住								
県内	1			1	1			
県外		1		2				2
日程								
1泊	1							
2泊		1		1				
3泊				1				2
4泊以上				1	1			
回数								
初回	1	1		2	1			
2回				1				
3回								2
4回以上								
目的								
休養	1	1		2	1			2
海レジャー				1	1			2
山レジャー								
観光		1		1				
満足宿泊施設		1		2				

年代	20代		30代		40代		50代	
性別	女性 (1)	男性 (1)	女性 ( )	男性 (3)	女性 (1)	男性 ( )	女性	男性 (2)
滞在費用				1				
サービス	1	1		2	1			
自然	1			3				1
スタッフ	1	1		2				
期間		1		2				
	1			1	1			1
5日以上滞在								
活動								
休養	1	1		2	1			1
周辺旅行		1		2				2
資格取得								
自然触合い	1			2				
地元触合い								
体験学習								
障害移動時間				3				
費用関連	1			1				1
利便性		1						1
子弟教育								
ペット								
滞在サービス								
食事つき	1	1		3	1			1
外食								1
自炊								
清掃				2				1
エコ方式		1						
セルフ				1	1			1
洗濯		1						
コイン				3	1			2
都会利便性	1	1		2	1			1
必要								1
不要								
自然触合い								
風景鑑賞	1			2	1			1
海レジャー		1		2	1			1
山エコツアー		1		2				
自然学習								1
ボランティア								
地元触合い		1			1			1
挨拶								
イベント見学		1			1			2
スポーツ交流								
呑み仲間								
文化教室								
取り寄せ				1				